健康創造住宅ニュース

２０１８年 ５月号

GW直前から麻疹（はしか）が流行！１０年ぶりに感染者が二桁に

２０１８年４月中旬から沖縄で麻疹が流行していましたね。
皆様、大丈夫でしたでしょうか。麻疹は、１度かかったことがあれば２回かかることはないと言われていますが、ワクチン接種をしたのかしていないのか不明な方はワクチン接種が勧められています。台湾から旅行でやってきた３０代男性が、発疹などの症状を訴えたため検査をしたところ、3月２０日に麻疹と診断され、この旅行者は自分の感染に気付かず観光地を移動したためにホテルや飲食店などで近くにいた人達に感染して沖縄県から愛知県へと広がっていきました。

麻疹とはいったいどんな病気？

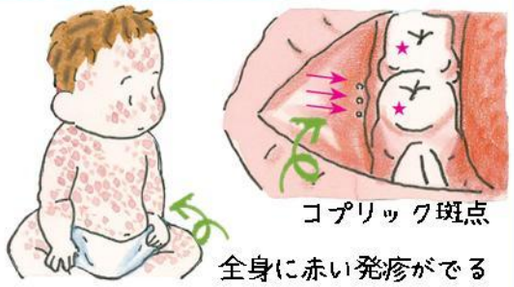
麻疹は、「麻しん」とも呼ばれています。麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症と知られています。
ウイルスの感染経路は、**空気感染・飛沫感染・接触感染**で人から人へ感染し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫をもっていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すれば、終生免疫が獲得されるといわれています。

麻疹の症状・発生状況など

麻疹（はしか）といえば、昔からある病気です。「麻疹ウイルス」の感染によって人から人へ感染し、潜伏期間を経て38～39℃以上の高熱が一週間以上続き、赤い発疹が出現、時には合併症を発症して死亡してしまう事もある命に関わる大変怖い感染症です。
乳幼児は特に、冬・春に流行するといい、発病が目立ちますが、一般に出生後早期（4～6か月まで）は、母胎からの免疫があるため発病しません。麻疹は毎年春から夏にかけて流行がみられ、過去の推移を見ると平成19、20年に10～20代を中心に大きな流行がみられましたが、平成20年より5年間、中学1年相当、高校3年相当の年代に2回目のワクチン接種を受ける機会を設けたことなどで、平成21年以降10～20代の患者数は激減したそうです。患者発生の中心は0～1歳となった一方で20歳以上の成人の割合も増加しているといわれています。

麻疹の潜伏期間はだいたい9～11日といわれています。

■**カタル期**（2～4日）初期には鼻水やくしゃみ、発熱といった風邪に似た症状が現われ、目やにや目の充血を伴う場合があります。風邪との区別が付きにくくウイルスが大量に増えていて周囲の人や家族に感染しやすい時期です。そして、口の中の粘膜に白い斑点（コプリック斑点）ができます。
■**発疹期**（3～4日）その後3～4日ほどで熱は下がりますが、約半日後に再び熱が上がり、同時に赤く少し盛り上がった発疹が体中にでてきて耳後部、頚部、顔、体幹、上肢、下肢の順に広がっていきます。
■**回復期**（7～9日）熱が下がり、発疹が消失しますが、発疹の色素沈着は残ります。



麻疹になる前に！ ワクチンを接種しよう！

麻疹は感染力が強く空気感染もするので、手洗いやマスクのみでの予防はできません。最も有効な方法が予防接種となります。麻疹に感染した人と接触した場合、72時間以内に麻疹ワクチンの接種をすることも効果的であると考えられているようです。接触後、5～6日以内であれば、γ-グロブリンの注射で発症を抑えることができる可能性はありますが安易に取れる方法ではありませんので、詳しくはかかりつけの医師とご相談ください。
１回の麻疹のワクチン接種で約95%以上の人がウイルスに対する免疫をつけることができると言われており、1回の接種で免疫が付かなかった人の多くは2回の接種でウイルスに対する免疫をつけることができます。また、妊娠しているとワクチン接種ができないため、今後妊娠を希望されている女性で麻疹にかかったことがない、あるいは発症したかどうか不明な方は、ワクチン接種をしておくことをお勧めします。

妊婦さんや、今後妊娠を希望されている方は要注意です！

麻疹のワクチンは「生ワクチン」といわれ、毒性を弱めた麻疹の菌を体内に入れて麻疹にかかった状態を人工的に作ることで免疫力をつけるもので、妊婦さんは通常よりも抵抗力が低下しているので、弱めているといえど、菌を体に入れるため赤ちゃんへの影響を考慮して**妊婦さんはワクチン接種はできません。**妊婦さんが麻疹にかかった場合、肺炎の発症２６倍、死亡率は6.4倍と高くなると言われています。成人が麻疹にかかった場合、子供に比べて重症化すると知られていますが、妊婦さんでは免疫機能低下の為さらに重症化してしまいます。万が一、妊娠中に感染すると流産などのリスクも高まってしまいます。
「いつかは子どもがほしい」とお考えの方は、ぜひ麻疹のワクチンを考えてみてはいかがでしょうか。

麻疹で合併症を起こすこともあります。

麻疹に伴って様々な合併症がみられ、全体で約30%にも達するとされています。その約半数が肺炎、頻度は低いものの脳炎の合併症例もあり、特にこの二つの合併症は麻疹による二大死因となり注意が必要です。
最も多い合併症は肺炎といわれていますが、比較的に頻度の高い合併症としては中耳炎などもあるそうです。
中耳炎を起こすを難聴になることもあります。他に懸念されれる合併症としては、心筋炎、クループ症候群（喉頭の炎症により犬の吠えるような咳や、声の擦れ、吸気性喘鳴、呼吸困難などの症状）といわれています。

感染しない為に・・・予防方法は、ワクチン接種のみ。

麻疹予防の唯一の防衛手段がワクチンのみです。やっかいなことに麻疹そのものを治す根本的な治療法が医療が発達した現在もいまだに存在せず、インフルエンザ同様、高熱に対しては解熱剤、咳には咳止め薬など対処療法しかありません。さらにワクチンには有効期間があり、免疫の持続期間は10年程度と言われています。一度も麻疹にかかったことがなく、ワクチン接種したのか不明な方は、感染しないためにぜひ医療機関に相談してみてくださいね。

■ 今月の社長のひとこと

ニュースを見ていると、国会では私たちには直接関係無いようなセクハラ問題などで紛糾しています。そんな中、あまり取り上げられませんが消費税の値上げが近づいてきました。いつかはマイホームを、と考えている方は、いつ住まい造りをスタートさせたら良いのかをきちんと考える時期になってきましたね。

社長：古橋雄治

◆◆◆ 快適空間 安らぎ生活 しあわせ人生 ◆◆◆

総合建設業 （愛知県知事許可<般-26>第36225号）
一級建築士事務所 （愛知県知事登録(い)第9808号）
こだわりの健康住宅 NPO 耐震住宅普及協会 感動の住まいづくり研究会

平成建設一級建築士事務所

〒453-0032 名古屋市中村区塩池町1-17-22
TEL(052)471-9541 FAX(052)471-2770
HP http://www.heiseikensetsu.com